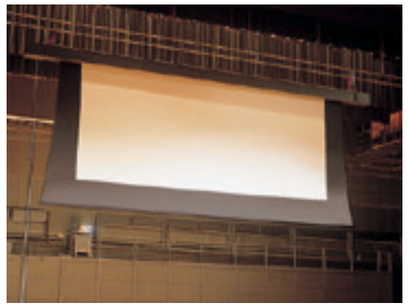

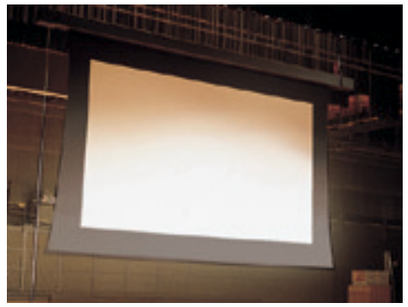

映像の世界に
全く新しい常識を導入しました。

■環境

- 東京国際フォーラムは、地上11階、地下3階、延床面積約14万平方メートルの規模で4つのホールの他、展示ホール／レセプション・ホール／34の会議室等、多彩なスペースを持ち、今日考えられる最高のレベルの設備を備える。
- 超大型のスクリーンを最大収容人数を誇るホールAに設置。
- ステージ幅 57.7m、スノコ高9mから12mという設置条件のためフロントスクリーンの設置は不可能となり、リアスクリーンの導入となった。

■設計

- スクリーンは電動巻き上げ方式とし、そのケースを投射距離が得られるようステージ最前列のバトンに吊り下げられるように設計。
- スクリーンが不要な時には簡単に撤去できるような構造とした。

■特徴

リアソフトスクリーンはこれまで巻き上げが不可能とされてきました。その理由は、巻き上げるとスクリーンにシワが残ってしまい、映像の品位が保てなかったからです。そこで今回スチュワート社のフィルム200（ハイコントラスト）を幕面に採用する事にしました。

スチュワートのリアソフトスクリーンは最大W27m×H12mまで、繋ぎ目の無いシームレスを可能とし、タブ・テンション機構の採用により、幕面にシワのない完璧な平面性を実現しています。また、長時間巻き取らせた状態でもベタつきの起きない酢酸ビニール＋塩化ビニールを採用しており、長時間の性能維持を可能としています。

世界のトップクラスが集まり、コミュニケーションを重ねる空間です。
そのコンセプトが新しい映像システムを開発しました。